

共保だより

2023年度 1月号

Part 2

各クラスの子どもの様子のページがない月には、園が大切にしている保育について、その意義や子どもの姿をお知らせし、当園の保育を理解していただけるようにしたいと考えました。まず、そのはじめは「リズムについて」です。

(今回は1月号に間に合わなかったので、共保だより1月号 Part 2として発行します。)



子どもたちはリズムが大好き！

広い部屋で思いっきり体を動かし楽しむリズム。保育士が弾く生のピアノのリズムに合わせて、様々な動物（ウサギやカメなど）や身近なもの（コマやボートなど）に模して、走ったり、跳んだり、止まったり、転んだり、這ったり、舞ったりします。そうするうちに、身体の骨、筋肉、関節、神経系の全面発達を促し、同時に自然への認識も深め育てていきます。

新入児が最初にとりこになるのが、この「リズム」。保護者が恋しくて泣いていても、園舎の真ん中にある広い部屋から聞こえてくるピアノの音や、それに続くお兄ちゃんお姉ちゃんたちのダイナミックなメダカや汽車の動きに、すぐに泣き止み、目を奪われます。

全クラス合同リズムの時は、年齢の高いクラスからリズムをしています。大きいクラスのリズムが始まると、夢中になっていつも見ている低年齢児。大きいクラスのリズムを眺めながら、身体を動かす喜びを少しずつ感じています。

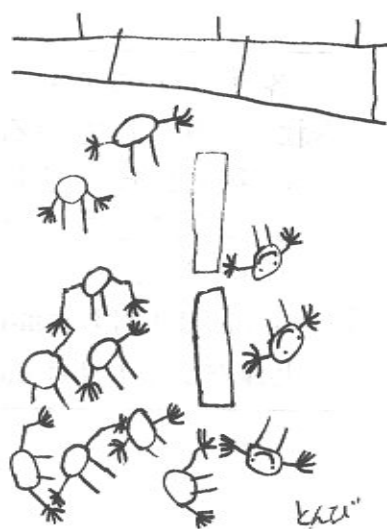
0歳児。四つ這いができるようになると、ペタペタとホールの中央まで這って出て、ドーンと座り、両手を上げながら上半身を左右に揺らし、自分もそのリズムをしているつもりです。

1歳児は、ウサギのリズムが流れると、身体を上下に揺らしたり、バタバタと足踏みをしたり、踵を上げて跳ぶことは難しいけれど、面白くて何度も挑戦します。

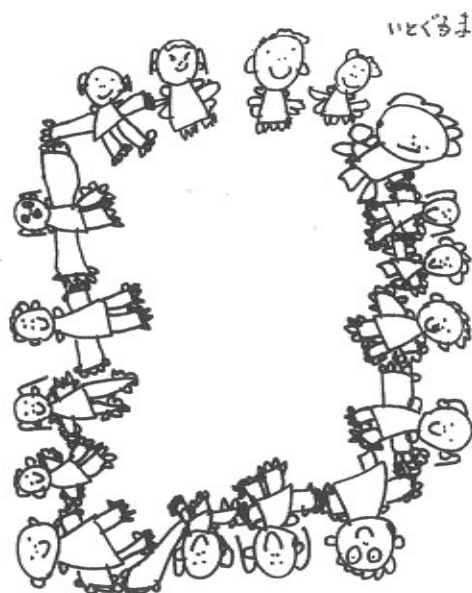
2歳児は模倣の天才集団。園庭で見たカエルになりきって、元気よく上や前に跳んで見せます。大好きな跳ぶ遊びを繰り返し、足裏が発達していきます。

3・4歳児になると「片足ケンケン」や「スキップ」のように、“～しながら～する”といった、2つの動作を組み合わせた動きができるようになります。また、わらべうた遊びの「なべなべ底抜け」では、はじめは難しい動作が、仲間と声を掛け合い、動作を協調させることで、成功することがだんだん増えてきます。仲間と動きと気持ちを合わせる楽しさ、仲間とできた達成感を重ねていきます。

5歳児になれば、リズムだけでなく、“自分たちで築く生活”を毎日積み重ねていくことで丈夫でしなやかなからだへと成長してきます。体の細部まで



コントロールできるようになり、土踏まずが発達してきて、高い跳躍や4拍子、2拍子、3拍子のリズムも刻めるようになってきます。それらの力を総動員して、トンビや縄跳び、蝶、側転やマズルカ、荒馬、竹踊りなどにも挑戦します。



思わずからだを動かしたくなる魅力的な曲と、自分の可能性にどんどん挑戦したくなるリズムの動き、子どもたちはリズムが大好き。仲間と一緒に楽しくしているうちに、運動機能の発達が促されます。もっと高く！ もっと速く！ もっと美しく！ と願う子どもたち。自分で“動きたい”と思えるワクワクしたリズムの時間を共に楽しみながら、子どもの全面発達を支えていきたいと思えます。

※「つなぎあう手」すぎの子共同保育所（現 木のいえ共同保育園）
創立30周年記念誌

より一部抜粋

そこで・・・

大人もリズムを体験してみませんか？

- ① 保育参加をしてみましよう。リズムをする日もあるよ。
- ② お迎えの時間に、職員のリズム部が子どもとリズムを行っていることがあります。ぜひいっしょにに参加してみてください。